

(7) ユリ
ウ 土壤消毒剤

農 薬 名	成 分 名	RAC コード I:殺虫 F:殺菌	適 用 病 害 虫 名								注 意 事 項	
			萎 凋 細 菌 病	球 根 腐 敗 病 F	白 絹 病	茎 腐 病 R	乾 腐 病 F					
ガ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤	タゾメット	I:8F		花	花							花:【花き類・観葉植物登録】
キ ル パ ー	カーハムナトリウム塩	I:8F		花		花	花					花:【花き類・観葉植物登録】
ク ロ ピ ク 8 0 ド ジ ョ ウ ピ ク リ ン ド ロ ク ロ ー ル	クロピクリン	I:8B	◎									

注) 球根腐敗病, 茎腐病及び乾腐病の対象病原菌の表記 F: *Fusarium* , R: *Rhizoctonia*

エ 病虫害防除法（ユリ）

（ア）球根腐敗病 *Fusarium* sp.

（防除のねらい）

病原菌は、被害残渣とともに土壌中に残存し、伝染源となる。また、種球では場に持ち込む場合があり、植付前には必ず球根消毒を行う。

（耕種的防除法）

- （1）無病球を用いる。
- （2）発病株を除去する。
- （3）排水をよくする。

（化学的防除法の注意事項）

植付け前の球根消毒は浸漬後風乾して植え付ける。

（イ）疫 病 *Phytophthora cactorum*, *Phytophthora nicotianae*, *Phytophthora megasperma*

（防除のねらい）

3種の病原菌によって起こるが、いずれも被害植物残渣とともに卵胞子の形で土壌中に残存し伝染源となる。降雨の多い時期や排水不良ほ場で発生が多い。

（耕種的防除法）

- （1）排水を図る。
- （2）罹病球は植え付けない。
- （3）マルチ栽培をする。
- （4）健全土壌に植え付ける。

（ウ）白 絹 病 *Corticium rolfii*

（防除のねらい）

被害部の菌核が土中に生存するので連作ほ場は発病が多くなる。菌核は落ちやすいので、菌核形成前に被害株を取り除いて伝染源を少なくすることに努める。やむなく連作するときは土壤消毒を行う。

（耕種的防除法）

- （1）連作を避ける。
- （2）被害株や病菌のついた敷わらは早めに除去焼却する。

（エ）炭 疽 病 *Colletotrichum dematium*

（防除のねらい）

葉、茎、花に発病する。りん片発病部が第1次伝染になることが多いので、球根の選定が重要である。

（耕種的防除法）

- （1）耐病性品種を選ぶ。（ひのもの、殿下1号、むなかた等）
- （2）無病種球を利用する。
- （3）排水を図り、多湿を避ける。

（オ）葉 枯 病 *Botrytis elliptica*

（防除のねらい）

菌核や被害部の菌糸で越年する。ハウスの多湿条件で発生しやすい。発病してからの防除は難しいので、発病前から予防散布を行う。

（耕種的防除法）

- （1）排水をよくし、通風採光を図る。
- （2）被害茎葉は早めに除去し、焼却する。
- （3）マルチ栽培をする。

(カ) モザイク病・萎黄病 TBV, CMV, LSV, ASGV

(防除のねらい)

モザイク病病原ウイルスには、キュウリモザイクウイルス (CMV) , チューリップモザイクウイルス (TBV) , ユリ潜在ウイルス (LSV) , リンゴステムグルーピングウイルス (ASGV) があり, CMV, TBV, LSV はアブラムシ類によって伝搬される。発生は CMV によるものが多いが, 重複感染する場合もある。病原ウイルスやユリの種類, 生育環境によって病徴は異なる。

(耕種的防除法)

- (1) 無病球を選ぶ。
- (2) 発病株の抜き取りを徹底する。
- (3) 木子繁殖は寒冷紗被覆をする。

(キ) アザミウマ類

(防除のねらい)

開花期に花を加害するアザミウマ類は, 切花栽培では蕾で切り取るので実害はない。球根栽培では貯蔵中に球根を加害するユリノキイロアザミウマが被害を与えることがある。

(ク) アブラムシ類

(防除のねらい)

ワタアブラムシが主体で, 芽や蕾に寄生するばかりでなく, ウイルス病を媒介する。飛来侵入防止策を講ずるとともに発生初期の防除を徹底する。

(耕種的防除法)

- (1) 施設では寒冷紗を被覆する。
- (2) 露地では, シルバーテープ, シルバーマルチを使用する。

(ケ) ネダニ

(防除のねらい)

年間10数世代を経過する。高温多湿で繁殖が盛んとなる。ほ場ではもちろん, 貯蔵中においても被害を及ぼす。球根腐敗病も誘発する。植付けあるいは貯蔵の際は選別をよくする。

(耕種的防除法)

- (1) 掘り取り後, 定植前に発生源となる植物残渣は除去する。
- (2) 酸性土壌に多いので, 石灰を施す。
- (3) 温湯消毒を行う (45℃で1時間 温度を厳守)。